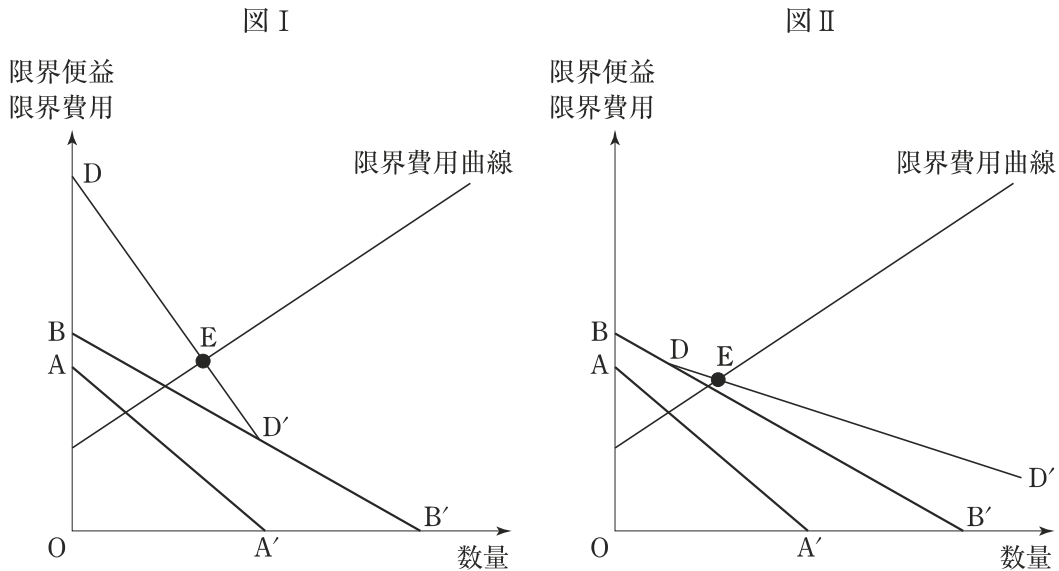


インフレーション（インフレ）に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. インフレは発生要因によって分類することができ、個人消費などの増加によって発生するのはコストプッシュ・インフレ、原材料価格などの上昇によって発生するのはデマンドプル・インフレと呼ばれる。
2. 物価上昇率が年10%程度に達するインフレはハイパー・インフレと呼ばれる。ハイパー・インフレは第一次世界大戦後のドイツで発生した後はどこの国でも発生していない。
3. 株価や地価など資産価格が継続的に上昇する現象は資産インフレと呼ばれる。日本では1970年代前半に石油危機が発生し、消費者物価の上昇率が低い水準に落ち着いている中で、株価や地価が数倍に値上がりする資産インフレが発生した。
4. 景気の停滞と物価上昇が同時に進行することがあり、これはスタグフレーションと呼ばれる。スタグフレーションの下では、中央銀行が景気対策とインフレ対策のどちらを優先すべきかという問題は発生しない。
5. インフレの下では、賃金の増加率が物価上昇率を下回る人にとっては、実質的な賃金が減少する。また、元本が名目的に固定されている預金などの金融資産については、元本の実質的な価値が減少する。

個人Aと個人Bの2人から成る経済を考える。図は、個人A、個人Bの公共財の限界便益曲線AA'、BB'と公共財の限界費用曲線を示している。公共財の最適供給量に関する次の文中のア～エに入るものがいずれも妥当なのはどれか。



公共財の社会全体の限界便益曲線は、個人の限界便益曲線を 方向に足し合わせたものであるから、 の折れ線 で示される。公共財の最適な供給量は、折れ線 と限界費用曲線との交点 E で決まり、この条件は公共財についての 条件と呼ばれる。

- | | ア | イ | ウ | エ |
|----|----|------|--------|---------|
| 1. | 垂直 | 図 I | DD' B' | サミュエルソン |
| 2. | 垂直 | 図 I | DD' B' | ナッシュ均衡 |
| 3. | 垂直 | 図 II | BDD' | サミュエルソン |
| 4. | 水平 | 図 I | DD' B' | ナッシュ均衡 |
| 5. | 水平 | 図 II | BDD' | サミュエルソン |